5.　１黒毛和牛繁殖農家における呼吸器疾病対策

宮古家畜診療所　　久場川　伸　仲宗根　忍　金城　肇

黒毛和牛繁殖農家において、子牛の呼吸器疾病は生産性の低下や治療費の増大により経営に影響を及ぼす。発生の原因としては、病原微生物や個体の免疫低下、飼養環境などが絡み合っている。今回、宮古島市における１農家での事故低減の取り組みを紹介する。

呼吸器疾病発生状況

H25 年 6 月時点で母牛 31 頭、子牛 24 頭が飼養。H25 年 9 月から H26 年 8 月までにの 1 年間に呼吸器疾病ののべ診療頭数が 40 頭、診療回数が 346 回であった。また、分娩直前の母牛のボデイコンディションが著しく悪く分娩間隔も 415.5 日であった。子牛の抗病力を高めるためにも母牛の栄養状態向上に取り組んだ。

母牛の飼養状況

H28　1 月の養分充足率を分娩 2 ヶ月前から 1 ヶ月前、分娩 1 ヶ月前から分娩まで、分娩から分娩後 3 ヶ月、分娩 3 ヶ月から分娩 2 ヶ月前の 4 つのステージに分け県宮古農業改良普及課に調査を依頼した。分娩 1 ヶ月前から分娩までのステージで TDN162.6%CP138.5%と高いレベルを示した。依頼時に提供を受けた H25 に農業普及課が測定した結果は、TDN114.6%CP129.1%でありその時点より飼養改善を指導していた。血液生化学検査においては、母牛において Alb 値は各ステージで 2.9mg/dL 以下、BUN 値も 7.8mg/dL 以下を示し蛋白摂取不足が伺われた。また、ビタミン A 値は各ステージ 80IU/dL 以下、Cu 値 37μg/dL 以下と低値を示し繁殖率低下等への影響が推測された。

子牛管理

出生時に人工初乳の投与、出生後 3 日目に鉄剤と総合ビタミン剤の注射を指導していた。また、ワクチンプログラムとして生後 2 ヶ月と 3 ヶ月で牛呼吸器 5 種不活化ワクチンを摂取した。H26 年よりジェット煙霧器を利用し牛体や畜舎の消毒を実施した。生後 3 日齢の血液生化学検査では、ビタミン A 値は平均 50.2IU/dL と低い値を示したが Fe 値は 152.3μg/dL と高く、また初乳摂取の指標となる GGT 値は 898.7mg/dLIg-G 値は 337.3 mg/dL と高く、出生時の人工初乳投与がしっかり行われていることが確認された。結果を受けて鉄剤の投与を止め総合ビタミン剤も経口投与へ変更した。

子牛の呼吸器疾病状況は H25 年 9 月から H26 年 8 月の 1 年間でのべ診療頭数が 40 頭、診療回数が 346 回で H26 年 9 月から H27 年 8 月、H27 年 9 月から H28 年 8 月はそれぞれ 40 頭、256 回、31 頭、161 回と減少した。また、母牛のボデイコンディションも改善され H28 年 2 月時点で分娩間隔が 338 日となった。出生体重も H25 年で牡子牛 28.5kg、牝子牛で 25.4 kg であったのが H28 年はそれぞれ 32.1kg、30.1kg と増加した。